

一般社団法人腹腔鏡下大腸切除研究会 研究助成採択課題成果報告書

採択年度	2020 年度研究助成採択
研究責任者氏名	肥田 侯矢
研究責任者所属施設	京都大学医学部 消化管外科
研究課題	潰瘍性大腸炎における腹腔鏡手術と開腹手術の臨床成績の検討
成果報告:	<p>まず、パイロット研究として潰瘍性大腸炎の手術加療に関するアンケート調査を行った。54 施設からご回答いただき下記のような結果を得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全 54 施設のうち、大腸全摘・回腸囊肛門(管)吻合術:IPAA(IACA)を行っているのは 41 施設、IPAA(IACA)を行っていないのは 13 施設であった。</li> <li>・IPAA の施行数が年間 3 例以下の施設が半数以上を占め、54 施設の総施行件数は 99 例/年であった。</li> <li>・現在では IPAA のほぼ全例(98/99 例)が腹腔鏡手術で施行されており、一時的人工肛門もほぼ全例(95/99 例)で造設されていた。</li> <li>・IPAA における腹腔鏡手術を導入している施設は年々増加している。2005 年以前は 18%の施設であったが、2010 年を境に逆転し、2015 年以降は 96%の施設で導入されていた。</li> <li>・術後は自施設でのフォローアップが多く(術後 1 か月以降のフォローアップは 84.4%の施設が外科でフォロー)、半数以上(56.8%)の施設で 5 年以上のフォローアップを行っていた。</li> </ul> <p>上記アンケート結果や研究会での意見をもとに、2005 年 1 月～2019 年 12 月に行われた潰瘍性大腸炎に対する手術症例を収集することとした。研究目的は、①潰瘍性大腸炎に対する手術において、本邦における大規模なデータベースを構築し、その現状を評価すること、②腹腔鏡下 IPAA 手術と開腹 IPAA 手術の術後短</p>

期及び長期成績を比較・検討することで、腹腔鏡手術の有用性を検討すること、とした。

研究名は潰瘍性大腸炎における腹腔鏡手術と開腹手術の臨床成績の検討  
Clinical Outcome of Surgery for Ulcerative Colitis; COSUC study  
とし、プロジェクトメンバーは京都大学医学部 消化管外科 肥田侯矢、藤井佑介、尾地伸悟、川口清貴である。

三重大学、滋賀医科大学、京都府立医科大学をはじめとした、腹腔鏡下大腸切除研究会所属 約 50 施設にご参加いただけることとなった。

現在、倫理審査に向けて準備中であり、審査を通過すれば、2023 年 3 月までにデータ収集を行い、2024 年3月までに研究を完了する予定である。

#### 論文・学会発表

第 35 回日本内視鏡外科学会総会(発表予定)

演題名：潰瘍性大腸炎に対する腹腔鏡手術と開腹手術-COSUC Study-

発表者：肥田侯矢

共著者：吉田真也，藤井佑介，川口清貴，川田健二，小濱和貴(京都大学)，栗生宜明(京都府立医科大学)，三宅亨(滋賀医科大学)，大北喜基(三重大学)，内藤剛(北里大学)

\*文字制限なし